

国内屈指の原生林、芦生研究林(京都府美山町)など豊富なフィールドワーク拠点をもち京都大と、旅行会社「JTB」運営のカルチャーサロンが連携し、中高年をターゲットにした自然や環境保護関連の新講座を十月から始める。法人化に伴って研究活動のPRを図る大学側と、シニア向け講座を模索するサロン側の思惑が一致。同大学が民間のカルチャー教

京大とJTB

中高年ターゲット 自然・環境新講座

室で講座を開くのは初めて、という。

同大学は昨春、同研究林や亜熱帯植物実験所(和歌山県串本町)などを統合して「フィールド科学教育研究センター」(京都市)を設立。森林や里山の荒廃、河川の汚染の海への影響を研究する「森里海連環学」を提唱している。

講座は五回で、大阪市内のサロンでの授業のほか、研究林な

どで自然や生き物の観察をする。センター長の田中克教授(海洋資源生物学)は「環境保全の大切さを子や孫に伝えてくれたら」と期待。サロン側も「中高年の学習意欲に応えられるように講座内容の充実を図りたい」としている。

同大学とJTBは今春、教授らの講義を聴く中高年対象の「キャンパスライフ体験ツアー」を実施、好評だった。